

政策番号	14	政策分野	障害者福祉
------	----	------	-------

基本方針	障害のあるひとが、自立した生活を営み、また社会のさまざまな分野の活動に参加できるよう、施策の着実な展開を図る。これらの取組を通じて、障害のあるひともないひと、すべての市民が個人として厚く尊重され、地域社会のなかで、いきいきと活動しながら、相互に認め合い、支え合い、安心してくらするまちづくりを推進していく。
------	---

担当局	保健福祉局	共管局	教育委員会
-----	-------	-----	-------

政策に関する主な分野別計画等	支えあうまち・京都ほほえみプラン 京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針
----------------	--

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価	23年度 評価値	32年度 目標値	24 年度	25 年度	26年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 障害者福祉施設・精神科病院からの地域生活移行人数(人)	24	37	b	b	27	5	37	13.5%	e
2 福祉施設からの一般就労移行人数(人)	68	50	a	a	98	121	50	242.0%	a
3 総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数(人)	45	600	a	a	58	69	60	115.0%	a
			a	a					b

施策の客観指標評価		参照 ページ	評価		
施策番号	施策名		24年度	25年度	26年度
1401	お互いに認め合い支え合っくらすまちづくり(3指標)	155	a	a	a
1402	自立した地域生活への移行促進(3指標)	157	a	a	a
1403	生きがいをもって働くことができる社会づくり(3指標)	161	a	b	c
1404	生活しやすい社会環境の整備(2指標)	163	c	b	a
(4施策平均)			a	a	a

政策の客観指標総合評価	24年度	25年度	26年度
(政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	—	—	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		24年度	25年度	26年度
1	障害への理解が進み、障害のあるひともないひと、認め合い、支え合っくらするまちになっている。	c	c	c
2	障害のあるひとが、みずから必要な福祉サービスを選択し利用することで、住み慣れた地域でくらしやすくなっている。	c	c	c
3	働く場で、障害のあるひとがいきいきと働く姿を多く見かけるようになっている。	c	c	c
4	バリアフリー(高齢者や障害のあるひとが社会生活をしていくうえでの障壁(バリア)を除去し、ハンディキャップなく生活できるようにすること)などの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。	c	c	c
市民生活実感調査総合評価		c	c	c

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

24年度		25年度		26年度	
順位	%	順位	%	順位	%
8	23.8%	9	87.4%	7	88.0%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
<p>【客観指標】●地域生活移行人数のうち、精神科病院からの移行人数について、これまで京都府が実施する調査結果により把握してきたが、障害福祉計画の目標値変更に伴い、集約されなくなったことから把握ができなくなった。そのため、最新数値は、障害福祉施設からの移行人数のみを計上しているため、b→e評価と悪化した。</p> <p>●一般就労移行人数は、障害のあるひとの雇用に意欲のある企業への支援や各種行政機関と連携した就労支援を実施したところ、昨年度からおよそ1.2倍に増加し、目標値を大きく上回ったため、3年連続a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数については、3年連続a評価と高い評価で安定している。進路先確保のための関係機関・団体との連携や就業学科における専門的な教育、授業と企業における長期実習を組み合わせた「総合支援学校デュアルシステム」の推進等、一人一人のニーズに応じた進路先の確保の取組を進めており、過去最高の就職者数を達成したことによる。</p>		25年度	B
<p>【市民の実感】●市民生活実感評価は、全体として、昨年度と同様の評価であった。</p> <p>●全設問の多数回答が「どちらとも言えない」であり、3年連続c評価が続いている。障害のあるひとへの関心と理解が広がっていないことによると考えられる。</p>		24年度	B
<p>【総括】●客観指標が市民の実感を上回る結果となった。</p> <p>●市民の実感を広げる必要はあるものの、客観指標を見るとこれまでの取組により一定の効果は出ているものと思われる。</p> <p>●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価			参照ページ
		24	25	26	
1401	お互いに認め合い支え合ってくらすまちづくり	B	B	B	156
1402	自立した地域生活への移行促進	B	B	B	158
1403	生きがいをもって働くことができる社会づくり	B	B	C	162
1404	生活しやすい社会環境の整備	C	C	B	164

<今後の方向性>

- お互いに認め合い支え合ってともに地域でくらすまちの実現に向け、平成25年3月に策定した「支えあうまち・京都ほほえみプラン」に基づき、支援体制の構築や障害のあるひとへの関心と理解が広がるよう、市民等への啓発、障害のあるなしに関わらず、積極的に社会参加できる社会環境づくりを推進するとともに、地域における相談支援の強化を行う。
- 障害のあるひとが自立した地域生活を送ることができるよう、安心して地域でくらすための障害福祉サービスの充実や、サービス利用に伴う負担の軽減、在宅生活を支援するサービスの拡充など、自立した地域生活への移行を促進する。
- 働く意欲のある障害のあるひとが生きがいをもって働くことができるよう、企業等への一般就労だけでなく、福祉的就労や在宅就労など、すべての「働き方」を支援するとともに、一人ひとりの「働く力」を向上させるため、それぞれの適性を踏まえた適切な能力開発が可能となる支援環境を整える。また、これらの支援に当たっては、ライフステージを通じた継続的かつ関係機関等の協働による多角的な取組を進める。
- 総合支援学校において、国や京都府、経済団体等との協働により、企業等での就労から福祉的就労まで切れ目のない支援体制は着実に進んでいる状況にあるが、今後も、就労機会の拡大に向けた各種の取組や普及・啓発活動を地道に続けていくことによって、一人ひとりの市民にも障害のあるひとの就労の広がりが実感されるよう取り組んでいく必要がある。

政策名	14	障害者福祉
-----	----	-------

指標名	障害者福祉施設・精神科病院からの地域生活移行人数（人）	
-----	-----------------------------	--

担当部室	障害保健福祉推進室	連絡先	222-4161
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

障害者福祉施設や精神科病院を退所又は退院し、自立した地域生活に移行した人数

2 指標の意味

障害がある方の、自立した地域生活への移行状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：年間の地域生活移行人数合計
出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 24	平成32年度目標値 37	根拠 毎年度継続して達成を目指すべき数値として京都市障害福祉計画に掲げている数値
------------------	-----------------	-----------------	---

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	23年度	24年度		数値	根拠	
数値	27	5	22人減	37	第3期京都市障害福祉計画に基づく年間目標値	13.5%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	京都府が実施する調査結果の公表が9月となったため、平成24年度数値が最新値
----	---------------------------------------

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については本人の障害状況の寄与度が高いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
b	b	e

指標名	福祉施設からの一般就労移行人数（人）	
-----	--------------------	--

担当部室	障害保健福祉推進室	連絡先	222-4161
------	-----------	-----	----------

1 指標の説明

就労移行支援施設や就労継続支援施設等の福祉施設を退所し、一般就労に移行した人数

2 指標の意味

働く意欲のある障害のある方が生きがいをもって働ける社会への進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 68	平成32年度目標値 50	根拠 毎年度継続して達成を目指すべき数値として京都市障害福祉計画に掲げている数値
------------------	-----------------	-----------------	---

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	24年度	25年度		数値	根拠	
数値	98	121	23人増	50	第3期京都市障害福祉計画に基づく年間目標値	242.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	
----	--

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については各種就労支援事業の総括的な成果指標であることから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
a	a	a

政策名	14	障害者福祉
-----	----	-------

指標名	総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数（人）
-----	-------------------------

担当部室	指導部	連絡先	352-2285
------	-----	-----	----------

1 指標の説明

総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数

2 指標の意味

総合支援学校高等部卒業生の自立的な社会参加の達成状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	45	600	今後10年間(23～32年度)の総合支援学校高等部卒業生の企業等就職者数を、過去10年間(13～22年度：365人)の50%増を上回る600人とする。

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	58	69	11人増	60	32年度の目標達成のために当年度達成すべき数値	115.0%

数値	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
				根拠	

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

最終的な目標値の達成を鑑みて、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

24	25	26
a	a	a